

教科(科目)	国語(国語表現Ⅱ)	単位数	2単位	学年	3年
教科書	『国語表現』(教育出版)	副教材等	『高校生必修語彙ノート改訂版』(桐原書店)		

1 学習目標

言語による表現力を養い、社会生活に生かすことのできる言語能力を育成することを目標とする。
具体的には、読んでわかる文章が書くことができる、伝えたいことが正しく伝わるように話すことができるようになることを目指す。

2 指導の重点

- ① 基本的な言語事項の習得を重視し、常用漢字の確実な習得、基本的な語彙や一般的な故事成語・慣用句等の理解と習得を目指す。
- ② 文章を読んだり視写したりする学習を通して、様々なものの見方・感じ方・考え方に触れると共に、言語による表現力の向上を図る。
- ③ 基本的な言語事項の習得と言語による表現力の学習の上に立って、様々な物事や他者の文章・意見などに対し、自分の感想や考えをまとめ、発表する機会を設ける。

3 評価の観点と評価規準及び評価方法

観点	関心・意欲・態度	話す・聞く力	書く力	知識・理解
評価規準	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	目的や場に応じて効果的に話し、的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えを深め、発展させている。	相手や目的、意図に応じた適切かつ効果的な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。	言葉の特徴やきまり、役割などについての理解を深め、知識を身につけている。
評価方法	発言(質問) 提出物 自己評価 定期考査 各種小テスト	発言(質問) 音読(朗読) 発表 自己(相互)評価	ワークシート 課題プリント 作文 自己(相互)評価 定期考査 各種小テスト	発言(質問) 音読(朗読) 自己評価 定期考査

4 定期考査・課題・提出物

定期考査や各種小テストを評価の材料とする。また、ワークシート等の提出物や発表など、さまざまな課題を随時求める。特に提出物を提出しなかったり、提出しても著しく不十分であった場合は、成績に大きく影響する。

5 担当者からの一言

自分で文章を書くことはとても大切ですし、時に難しさを感じることもあります。漢字や言葉に関する知識を高めることや、よい文章に接することも文章を書く力を伸ばすためには必要です。社会人になったときを見据え、よりよい文章を書くという意識をふだんから心がけることが大切です。

6 年間プログラム

学期	学習内容 [単元]	学習のねらい	学習活動【評価方法】
24 時間 想定 1 学 期	基礎編 ・「言葉に変える」 ・常用漢字や語彙の学習	・絵を言葉で伝えることで、「表現する」という行為に慣れ親しむ。 ・表現力の自己診断を行い、今後の学習への動機付けを行う。 ・言語表現の基礎として、常用漢字と基本的な語彙の習得を図る。	・文章の視写。【課題プリント】 ・聴写。絵を言葉にする。 【課題プリント・ワークシート】 ・常用漢字・語彙の学習。 【課題プリント】
	中間考査		
	基礎編 ・作文（コラム）を書く ・常用漢字や語彙の学習	・コラムの面白さや工夫を見つけて、自分の文章に生かす。 ・「何を書くか」決め、「どう書くか」工夫しながら自分の「コラム」を書き、作文の力を養う。 ・言語表現の基礎として、常用漢字と基本的な語彙の習得を図る。	・コラムの視写。【課題プリント】 ・作文（コラム）。 【課題プリント・ワークシート】 ・常用漢字・語彙の学習。 【課題プリント】
期末考査			
30 時間 想定 2 学 期	実践編 ・「小論文Ⅰ」 ・「メディア・リテラシー」 ・常用漢字と語彙の学習	・小論文の技術を学び、小論文作成の技法を身に着ける。 ・セルフ・ディベートによって説得力のある文章を書く準備をする。 ・広告の意味とその特徴を理解し、実作を通じて確認する。 ・言語表現の基礎として、常用漢字と基本的な語彙の習得を図る。	・マッピングメモ（拡散思考の体験）、主題文の作成（意見の明確化）。【課題プリント】 ・セルフ・ディベート3点セットメモの作成。 【課題プリント・ワークシート】 ・構想ノートの作成。 【課題プリント・自己（相互）評価表】 ・常用漢字・語彙の学習。 【課題プリント】
	中間考査		
	実践編 ・「小論文Ⅱ」 ・常用漢字と語彙の学習	・提示されたデータから必要な情報を読み取る。 ・論理的思考と論理的表現のトレーニングをしながら、論理的な文章の書き方を学習する。 ・言語表現の基礎として、常用漢字と基本的な語彙の習得を図る。	・データを読み取る。【課題プリント】 ・自分の意見を主張する文章を作る。【ワークシート・自己（相互）評価表】 ・常用漢字・語彙の学習。 【課題プリント】
期末考査			
16 時間 想定 3 学 期	実践編 ・「プレゼンテーションの方法」	・自分の身のまわりのことについてプレゼンテーションをする。 ・効果的に相手に伝えるためにどう工夫したらよいかを考える。	・プレゼンテーションの準備。【ワークシート】 ・プレゼンテーションの実施。 【ワークシート・自己（相互）評価表】
	学年末考査		

教科（科目）	国語（古典B）	単位数	3単位	学年	3年
教科書	『高等学校 標準古典B』 （第一学習社）	副教材等	『八訂版 読解をたいせつにする体系古典文法』 （数研出版）		

1 学習目標

古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。

2 指導の重点

- ・ 古典に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解する。
- ・ 古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確にとらえる。
- ・ 古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。
- ・ 古典の内容や表現の特色を理解して読み味わい、作品の価値について考察する。
- ・ 古典を読んで、我が国の文化の特質やわが国の文化と中国の文化との関係について理解を深める。

3 評価の観点と評価規準及び評価方法

観点	関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
評価規準	古典を読む力を進んで高めるとともに、古典についての理解や関心を深めようとしている。	古典を読んで思想や感情などを的確に捉えたり、その価値を考察したりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなどの理解を深め、知識を身に付けている。
評価方法	発言・質問 授業態度 提出物 小テスト 定期考査	朗読 提出物 小テスト 定期考査	発言・質問 提出物 小テスト 定期考査

4 定期考査・課題・提出物

定期考査は5回実施する。授業ではノート作成や課題プリントに取り組み、随時提出する。歴史的かなづかいや漢字の読み、語句の意味、訓読に関する小テストもその都度行う。提出物や小テストは、評価の重要な材料とする。

5 担当者からの一言

古文も漢文も、音読がすべての基本です。それをふまえて、内容を理解するために、語句の意味を理解し、古典文法や漢文の句法を繰り返し学習してください。様々な感覚を使いながら身につけていきましょう。

6 年間プログラム

学期	学習内容	学習のねらい（何を学ぶか）	学習活動（評価材料）
前半 18時間 想定 1 学 期 後半 18時間 想定	深草の里（無名抄）	<ul style="list-style-type: none"> 対話の内容を理解する。 和歌の批評の要点を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 本文を音読する。 重要単語の意味を調べる。 正確に口語訳し、内容を理解する。
	不若人有其宝 （新序）	<ul style="list-style-type: none"> 比較、二重否定の句形を理解する。 話の展開をふまえ、登場人物の考えや思いを読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> 本文を音読し、書き下す。 正確に口語訳し、内容を理解する。
	中間 考 査		
	姨捨（大和物語）	<ul style="list-style-type: none"> 話の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を味わう。 歌物語における和歌の役割を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 本文を音読する。 重要単語の意味を調べる。 敬語表現に留意して、正確に口語訳する。
	死諸葛走生仲達 （十八史略）	<ul style="list-style-type: none"> 反語の句形を理解する。 歴史的背景をふまえ、物語の展開と登場人物の関係性を読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> 本文を音読し、書き下す。 正確に口語訳し、故事成語の由来を理解する。
期 末 考 査			
前半 23時間 想定 2 学 期 後半 22時間 想定	三舟の才 （大鏡）	<ul style="list-style-type: none"> 歴史物語を読んで、登場人物の行動や心情を読み味わう。 敬語や助詞、助動詞の知識を確認し、解釈にいかす。 	<ul style="list-style-type: none"> 本文を音読する。 重要単語の意味を調べる。 主語を明らかにして口語訳し、物語の展開を的確に理解する。
	枕中記 （枕既済）	<ul style="list-style-type: none"> 話の展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。 古代中国人の発想のおもしろさに触れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本文を音読し、書き下す。 正確に口語訳し、内容を理解する。
	中間 考 査		
	日本紀の御局 （紫式部日記）	<ul style="list-style-type: none"> 文章の内容を構成や展開に即して的確に捉える。 平安時代の漢学の素養について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 本文を音読する。 重要単語の意味を調べる。 助動詞の知識を活用して内容を解釈する。
	猫相乳（韓愈） 臨江之麋（柳宋元）	<ul style="list-style-type: none"> 文章の内容を構成や展開に即して的確に捉える。 風刺の内容を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 本文を音読し、書き下す。 正確に口語訳し、内容を理解する。
売油翁（欧陽脩）	<ul style="list-style-type: none"> 文章の内容を構成や展開に即して的確に捉える。 疑問・反語の句形を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 本文を音読し、書き下す。 正確に口語訳し、内容を理解する。 	
期 末 考 査			
24時間 想定 3 学 期	若紫（源氏物語）	<ul style="list-style-type: none"> 長編物語の概要を理解する。 登場人物の関係性をふまえ、物語の展開を読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> 本文を音読する。 重要単語の意味を調べる。 主語を明らかにして口語訳し、物語の展開を的確に理解する。
学 年 末 考 査			

教科（科目）	地理歴史（世界史A）	単位数	3単位	学 年	3学年
教科書	『要説世界史』世界史A （山川出版社）		副教材	『ニューステージ 世界史詳覧』（浜島書店）	

1 科目の特徴

「世界史A」は、特に近現代史を中心とする世界の歴史の大きな流れを、日本の歴史と関連付けながら学ぶ科目であり、現代の諸課題との関連性の考察を重視する科目である。

2 学習目標

近現代史を中心とする世界の歴史を、諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

3 評価の観点と評価規準及び評価方法

観点	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 近現代史を中心とする世界の歴史に関心と課題意識を高め、意欲的に追求している。 教科書や筆記具を机に出し、私語をせずノートを取っている。 提出物を期限までに提出することが出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> 現代社会の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断し、その課程や結果を適切に表現している。 歴史的事象の推移や変化、相互の因果関係などを時間軸の中で調べ、多面的・多角的に考えることが出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> 近現代史を中心とする世界史の基本的な事柄に関する諸資料を様々な方法で収集できる。 世界史の理解に有用な情報を主体的に選択・活用して、追求し、考察した過程や結果を適切な方法で表現できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 世界史の大きな枠組みと流れを理解するために必要な基本的な知識を、日本の歴史と関連付けながら理解・把握している。
評価方法	定期考査 提出物 ノート 発言 取り組みの姿勢	定期考査 提出物 ノート 発言 取り組みの姿勢	提出物 ノート 取り組みの姿勢	定期考査 提出物 ノート 発言 取り組みの姿勢

4 定期考査

- ・年間5回の定期考査を実施する。
- ・授業ノート等は定期考査後に提出を求める。
- ・課題を出す（不定期）。

5 担当者から一言

- ・世界史は、「過去」を学ぶ教科ですが、その過去こそが皆さんが生きているこの社会で、現在起こっている様々な出来事のおおもとなのです。ですから、授業だけでなく、新聞やニュースを見たり聞いたり、いや身の回を見わたして「これ、なんでだろう？」と考えてみてください。きっと「生きる力」が身につきますよ。
- ・できたら、活発な発言や質問をして積極的に世界史の授業に参加してください。「なぜ」「どうして」という疑問をもって、歴史的視点から考える習慣が身に付くと、世界史の学習が楽しくなります。

6 年間プログラム

学期	学 習 内 容	学習のねらい	評価方法
(36) 時間 想定 1 学 期	<p>序章 文明のおこり</p> <p>1. 地球と人類</p> <p>2. 古代文明の形成</p> <p>第1章 諸地域世界の形成と交流</p> <p>1. 東アジア世界</p> <p>2. 南アジア世界・東南アジア世界</p> <p>3. 西アジア世界・イスラーム世界 (中間考査) テスト返却・解答・解説</p> <p>4. ヨーロッパ世界</p> <p>5. 諸地域世界の接触と交流</p> <p>第2章 一体化に向かう世界</p> <p>1. アジアの伝統的諸帝国 (期末考査) テスト返却・解答・解説</p>	<p>世界史への興味関心を持つ</p> <p>第1章</p> <p>1 ①中国の古典文明 ②東アジア世界の形成</p> <p>3 ①西アジア世界 ②イスラーム世界</p> <p>4 ①古代の地中海世界 ②中世ヨーロッパ世界</p> <p>5 ①東アジア海域世界の接触と交流 ②インド洋海域世界の接触と交流 ③地中海海域世界の接触と交流 ④内陸ユーラシア世界の接触と交流</p> <p>各地域の特質を理解する</p> <p>第2章</p> <p>1 ①中華世界の再編 ②イスラーム世界の再編</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中間考査 ・期末考査 ・授業への 取り組み 方や意欲 ・課題の提 出状況 ・ノートの とり方
(45) 時間 想定 2 学 期	<p>2. ヨーロッパの主権国家体制</p> <p>3. 世界商業の展開</p> <p>第3章 一体化に向かう世界</p> <p>1. 欧米諸国における国民形成</p> <p>2. アジア諸国の変容</p> <p>3. 列強による世界分割 (中間考査) テスト返却・解答・解説</p> <p>4. 諸民族の抵抗運動</p> <p>第4章 20世紀の世界</p> <p>1. 地球世界の成立</p> <p>2. 世界戦争の展開と民族運動 (期末考査) テスト返却・解答・解説</p>	<p>世界の一体化の進展を理解する。</p> <p>2 ①ルネサンスと宗教改革 ②ヨーロッパ世界の拡大 ③近代主権国家の成立</p> <p>3 ①重商主義と植民地 ②オランダの独立と繁栄 ③英仏間の植民地争奪</p> <p>近代社会の成立と問題について理解し、 考察する。</p> <p>第3章</p> <p>1 ①産業革命 ②アメリカ独立革命 ③フランス革命とナポレオン ④ヨーロッパ市民社会の成立 ⑤自由主義・国民主義の進展 ⑥アメリカ大陸の動向 ⑦国際化の進展 ⑧19世紀の欧米文化</p> <p>第4章</p> <p>2 ①第一次世界大戦と世界 ②第二次世界大戦と世界</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中間考査 ・期末考査 ・授業への 取り組み 方や意欲 ・課題の提 出状況 ・ノートの とり方
(24) 時間 想定 3 学 期	<p>3. 冷戦期の世界</p> <p>4. グローバル化する世界と冷戦の終結</p> <p>終章</p> <p>1. 戦争と平和―地域紛争と国民国家</p> <p>2. 科学技術と現代文明 (期末考査) テスト返却・解答・解説</p>	<p>現代の諸問題の原因について考察し、理 解を深める。</p> <p>3 ①米ソ両陣営の対立 ②アジア・アフリカ諸民族の動向 ③冷戦構造の変容</p> <p>現代世界の中のわが国と、未来について 考察する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学年末考 査・授業 への取り 組み方や 意欲 ・課題の提 出状況

教科（科目）	地理歴史（日本史A）	単位数	3単位	学 年	3年（選択）
教科書	『改訂版日本史A』（山川出版社）		副教材等	『最新日本史図表 新版』（第一学習社）	

1 学習目標

我が国の歴史展開を、世界史的視野に立って総合的に考察させ、我が国の文化と伝統の特色について認識を深めさせることによって、歴史的思考力を養い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。

2 指導の重点

近現代史を中心に学習し、現代日本社会の形成過程について理解させる。
地域社会の身近なものを教材にし、日本社会との関連を理解させる。

3 評価の観点と評価規準及び評価方法

観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 日本の歴史展開に関心と問題意識を高めている。 民主的、平和的國家・社会の一員としての自覚を深め、現代日本社会に主体的に生きる意欲を高めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本史の知識を踏まえて、現代日本の課題を歴史的視点から考察しようとしている。 地域社会の歴史を学び、現代日本との関連に対する理解を深めようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本史の基本的な事柄に関する諸資料を様々な方法で収集している。 日本史の理解に必要な情報を主体的に選択して活用し、歴史的な事柄を追求する方法を身につけている。 追求し、考察した過程や結果を適切な方法で表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本史を理解するために必要な知識を身につけている。 日本史と世界史を関連づけながら理解している。 地域の歴史と日本史の関連を理解している。
評価方法	定期テスト 提出物 ノート 発言・取り組みの姿勢	定期テスト 提出物 ノート 発言・取り組みの姿勢	定期テスト 提出物 ノート 発言・取り組みの姿勢	定期テスト 提出物 ノート 発言・取り組みの姿勢

4 定期考査・課題・提出物

1学期中間・期末、2学期中間・期末、3学期学年末の5回定期テストを実施します。
単元ごと、定期テスト前後に課題などの提出物を課します。

5 担当者からの一言

- 日本史は、過去の出来事の羅列にすぎないと思われるかも知れません。しかし、その内容は、他の教科の学習内容と関連し、日本で現在起きている様々な出来事と結びついています。日本史の授業を受けることによって、新聞やニュースが理解できるようになり、社会に対する興味や関心が高まり、視野が広がるはずです。
- 私たちの祖父や祖母、父や母の身近な家族が生きてきた時代と地域の歴史を学ぶことで、家族やふるさとの理解や愛着が深まるはずです。

6 年間プログラム

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動【評価方法】
(36) 時間 想定 1 学 期	1章 近代への胎動 1 日本をとりまく世界の変容 2 近世社会の動揺 2章 開国と明治維新 1 アジアの激動と日本の開国 2 江戸幕府の滅亡 〔中間考査〕 3 明治維新 4 富国強兵 5 初期外交 6 殖産興業と文明開化 第3章 立憲国家の成立 1 自由民権運動 2 立憲制の成立 3 立憲政治の展開 4 日清・日露戦争第 〔期末考査〕	幕藩体制の下での経済機構や交通・技術の発展、都市の繁栄に着目して、農業や商工業の発展及び町人文化の形成、農山漁村の生活文化について学ぶ 欧米諸国のアジアへの進出、学問・思想及び産業の新たな展開に着目して、幕藩体制の動揺と近代化の基盤の形成について学ぶ 開国、幕府の滅亡と新政府の成立からの明治時代の近代日本の歩みについて、アジアにおける国際環境と関連付けを学ぶ 文明開化など欧米の文化・思想の影響や国際環境の変化に着目して、開国、明治維新から自由民権運動を経て立憲体制が成立するまでの我が国の近代化の推進について学ぶ 条約改正、日清・日露戦争とその前後のアジア及び欧米諸国との関係の推移に着目して、我が国の立憲国家としての展開について学ぶ	定期考査2回 授業への取り組み方や意欲 課題の提出状況 ノートの取り方
(45) 時間 想定 2 学 期	5 産業革命と社会の変容 6 明治の文化 第4章 第一次世界大戦と日本 1 政党政治の展開 2 第一次世界大戦とワシントン体制 3 経済社会の変容 4 市民文化 第5章 昭和恐慌と満州事変 1 昭和の恐慌 〔中間考査〕 2 政党内閣期の内政と外交 3 満州事変 第6章 第二次世界大戦と日本 1 日中戦争 2 重化学工業化と統制経済 3 第2次世界大戦と太平洋戦争 第7章 占領下の日本 1 占領と民主化 〔期末考査〕	近代産業の発展と近代文化の特色、国際社会の中の日本の立場に着目して、第一次世界大戦前後の対外政策の推移や大戦が国内の経済・社会に及ぼした影響について学ぶ 都市の発達と大衆社会の成立に着目して、政党の役割と政治や社会運動の動向及び文化の特色について学ぶ 国際社会の動向、国内政治と経済の動揺、アジア近隣諸国との関係に着目して、対外政策の推移と戦時体制の強化など第二次世界大戦と日本とのかわりについて学ぶ 第二次世界大戦後の国際関係の推移に着目して、占領政策と諸改革、新憲法の成立、平和条約と独立など我が国の再出発及びその後の政治の推移と新しい外交関係の確立について学ばせる。	定期考査2回 授業への取り組み方や意欲 課題の提出状況 ノートの取り方
(24) 時間 想定 3 学 期	2 冷戦の開始と日本の復興 第8章 経済繁栄と保守長期政権 1 55年体制 2 高度成長期の経済と社会 3 経済大国 第9章 現代の世界と日本 〔期末考査〕	生活意識や価値観の変化に着目して、戦後の経済復興、技術革新と高度成長、経済の国際化など日本経済の発展と国民生活の向上について学ばせる。 世界の中の日本の立場や我が国の国際貢献の拡大などに着目して、現代世界の動向と日本の課題及び役割について学ぶ 自然環境や大陸からの文化による影響を学ぶ	定期考査1回 授業への取り組み方や意欲 課題の提出状況 ノートの取り方

教科 (科目)	地理歴史 (地理 A)	単位数	3 単位	学 年	3 年 (選択クラス)
教科書	『地理 A』 (東京書籍) 『高等地図帳』 (二宮書店)	副教材等	『新詳地理資料 COMPLETE2016』 (帝国書院)		

1 学習目標 (ねらい)

現代世界の地理的認識を学ぶとともに、地理的な見方や考え方を培い、現代社会・国際社会に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

2 指導の重点

- ・ 2年次に地理Bを履修し、今年度さらに地理Aを選択した者を対象に、継続して授業をすすめる。
- ・ 継続して現代世界を地域から考える。具体的には東南アジアと西・中央アジアについて、州や大陸規模での地誌から地域的特性を考える。
- ・ これまでに学んできた第I編の系統地理的な方法と、第II編の地誌的な方法をともに活用して、現代世界の諸課題を考える。
- ・ さまざまな地図の特徴とその利用方法を学ぶ。

3 評価の観点と評価規準及び評価方法

観点	関心・意欲・態度	思考・判断力	資料活用の技術・表現	知識・理解
評価規準	地理学習の意義を積極的に見だし、そこで得た知識・技能・態度を社会生活、ないしは現代的諸課題の解決に生かすことができる。	現代世界の地理的事象がどのように人間生活と関わっているかや、世界の地域にはどのような特性があるかを考察する力を身につけることができる。	諸資料を選択して活用することを通して地理的事象や地域の特徴を追求する方法を身につけ、それらの過程や結果を確実に表現することができる。	地理的諸事象や地域性、現代的諸課題の分析・考察に必要とされる基礎的知識 (用語・地名など) や基本的概念 (空間, 環境, 地域) を身につけている。
評価方法	定期テスト 提出物 取り組み方 発言	定期テスト 提出物 取り組み方 発言	提出物 取り組み方	定期テスト 提出物 取り組み方 発言

4 定期考査・課題・提出物

- ・ 年間5回の定期考査を実施する。
- ・ 授業プリント等は定期考査終了後に提出を求める。
- ・ 課題を出す (不定期)。

5 担当者からの一言

地理は多方面の知識が要求される科目であり、一般教養的な要素の強い科目でもある。まず、興味と関心を持つことが大切であり、それによってより多くの知識を理解し、身につけることができる。

6 年間プログラム

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動【評価方法】
(36) 時間想定 1 学期	第1編 現代世界の特徴と動向 第1章 地球儀や地図からとらえる世界 1 地球儀と世界地図 2 日本の位置と領域 第2章 結びつく現代世界 1 世界の国家群 2 貿易で結びつく世界 3 交通・通信の発達と世界の一体化 4 観光を軸とした国際的な人々の移動 第2編 世界の生活・文化の多様性 第1章 世界的視野から見た自然環境と文化 1 生活の舞台としての地形 2 生活の舞台としての気候 3 文化	<ul style="list-style-type: none"> ・地図は用途に応じて適切な図法を用いることを理解する。 ・国家の三要素と国境の概念、日本の地理的位置と領域、日本の領土問題から、世界的な見地から日本という国を考察する。 ・国家群とその結成の背景となる当時の国際情勢との関わりを理解する。 ・貿易体制と国際分業から、ものや資本の移動を通じた現代世界の動向と課題について考察する。 ・交通・通信の発達を切り口に、人や情報の国際移動を通じて、一体化する現代世界の動向と課題について考察する。 ・諸地形の特徴について考察し、文化との関係を理解する。 ・世界の各気候帯とそこに居住する人々の生活の特徴について理解する。 ・言語と宗教を軸に、現代世界における文化の多様性について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト 2回 ・提出物 ・授業への取り組み
(45) 時間想定 2 学期	第2章 諸地域の生活・文化と環境 1 東アジア 2 東南アジア 3 南アジア 4 西アジア・北アフリカ 5 アフリカ中南部 6 ヨーロッパ 7 中東とその周辺 8 北アメリカ 9 中南アメリカ 10 オセアニア 第3編 深刻化する地球的課題とその解決策 第1章 地図で読み解く地球的課題 第2章 さまざまな地球的課題 第3章 持続可能な社会の実現を目指して	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域の生活・文化の特徴について、自然環境と関連づけて考察する。 ・地図などの資料を用いて地球的課題の現状やメカニズムについて読み解いていく。 ・エネルギー問題、環境問題、南北問題、人口問題、食糧問題、高齢化問題等様々な問題について考察する。 ・世界情勢とそれが世界のエネルギー事情に与える影響について追究・考察し、今後のエネルギー政策のあり方を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト2回 ・提出物 ・授業への取り組み
(24) 時間想定 3 学期	第4編 身近な地域と地理的課題 第1章 身近な地域と地図 第2章 自然環境と防災 第3章 生活圏の地理的な諸課題と地域調査	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な地図とその果たす役割を理解する。 ・地形図の読み取りから身近な地域を理解する。 ・主題図の作成を通してそれぞれの利用法を理解する。 ・地図を活用して現代世界の問題を考える。 ・災害克服へ向けた各地域における様々な取り組みについて概観する。 ・地域調査のテーマの事例として、地域の課題を複数取り上げ、その現状や解決のための取り組みについて理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト1回 ・提出物 ・授業への取り組み

教科名	科目名	学科・学年	単位数
数学	数学B	普通科・第3学年	3単位
教科書 副教材	『新編 数学B』（東京書籍） 『アシストセレクト 新編数学B』（東京書籍）		

1 学習目標

- ・数列、ベクトルについての概念や原理・法則などについて理解し、知識を身に付ける。
- ・基礎的な数学的事項を考察し、表現・処理する仕方や推論方法を身に付け、問題解決する方法を理解する。
- ・数学的活動を通して、数学的な見方や考え方を身に付け、それらを積極的に活用しようとする態度を育てる。

2 指導の重点

- ・数学的なものの見方や考え方を身に付けるとともに、解答の書き方（表現の仕方）にも気を配るようにする。
- ・問題の解き方を前に出て説明したり、お互いに発表する場を設け、活発な授業展開をしていく。

3 評価の観点と評価規準及び評価方法

観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
評価規準	数学的活動を通して、数列とベクトルにおける考え方に興味をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用しようとしたか。	数学的活動を通して、数列とベクトルにおける数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的に考え、理論的に考えることができるようになったか。	数列とベクトルにおいて、事象を数学的に考察し、表現し、処理する仕方や推論の方法をきちんと身に付け、的確に問題を解決することができたか。	数列とベクトルにおける基本的な概念、原理・法則などをしっかり理解し、知識を身に付けることができたか。
評価方法	取り組み姿勢 提出物	取り組み姿勢 提出物	ノート（机間巡視） 課題 定期テスト	ノート（机間巡視） 課題 定期テスト

4 定期考査・課題・提出物

- ・年間5回100点満点で実施。授業内容と課題内容から主に出題する。
- ・1学期、2学期は2回、3学期は1回の課題あり。また、適当な時期にプリント提出あり。

5 担当者からの一言

単に黒板を写すだけでなく、授業の内容をよく聞いて理解をするように心がけること。
焦らずに時間をかけて考えることが理解につながります。悩みながら学びましょう。

6 授業計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動【評価方法】
1 学 期 想定 時間 (36)	1章 数列 1節 数列 2節 いろいろな数列 3節 漸化式と数学的帰納法	<ul style="list-style-type: none"> ・数列の意味を理解する。 ・等差数列や等比数列など、簡単な数列について一般項や第 n 項までの和を求める。 ・記号 Σ の意味を理解し、活用できるようにする。また、少し複雑な数列の一般項や和を求める。 ・漸化式・数学的帰納法について学び、活用できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 【発言（質問）】 【取り組み姿勢】 【課題プリント】
2 学 期 想定 時間 (45)	2章 ベクトル 1節 平面上のベクトル 2節 ベクトルの応用	<ul style="list-style-type: none"> ・ベクトルの意味を理解する。 ・ベクトルについて、簡単な加減法を理解する。 ・ベクトルの内積とその性質について理解する。 ・位置ベクトルを理解することにより、平面図形への応用ができるようにする。 ・ベクトル方程式の意味、及び直線や円のベクトル方程式を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 【発言（質問）】 【取り組み姿勢】 【課題プリント】
3 学 期 想定 時間 (24)	3節 空間におけるベクトル	<ul style="list-style-type: none"> ・空間座標の概念を導入し、その意味や表し方について理解する。 ・ベクトルを空間図形に拡張し、空間ベクトルを理解し活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 【発言（質問）】 【取り組み姿勢】 【課題プリント】

教科名	科目名	学科・学年・類型	単位数
数 学	数学セミナー I	普通科・第3学年・選択	2単位
準教科書 副教材等	〔主たる教材〕 東京書籍「新編数学 I」および「新編数学 II」 〔副教材〕 東京書籍「ニューサポート 数学 I」 〔副教材〕 東京書籍「ニューサポート 数学 II」		

1 学習目標

数学における概念や原理・法則の体系的な理解を深め、事象を数学的に考察し表現する能力を高めるとともに、テーマに沿った課題を多様な視点から考察することを通して、数学を積極的に活用して、主体的に判断し、行動する態度を育成する。

2 指導の重点

- (1) 既習事項の総合的な復習
- (2) 条件変更時の考察をとおした問題探究
- (3) 適切なテーマによる課題学習

3 評価の観点と評価規準及び評価方法

	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
評 価 規 準	数学の論理や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
評 価 方 法	・学習活動への参加状況 ・質問に対する発言や発表の内容 ・提出物の内容	・定期考査 ・質問に対する発言や発表の内容 ・プリントや課題の解法	・定期考査 ・質問に対する発言や発表の内容 ・提出物の内容	・定期考査 ・質問に対する発言や発表の内容 ・授業中の確認テスト

4 定期考査・課題・提出物

定期考査は1・2学期2回、3学期1回100点満点で実施。授業内容と課題内容から主に出題する。必要に応じて、補充問題のプリントを配布し、提出してもらいます。

5 担当者からの一言

数学セミナー I は、既習科目の数学 I および数学 II などの復習をとおして、数学における基本的な知識・技能の定着と理解を十分に図るため、色々な問題に取り組んでいきます。

6 授業計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動(評価材料)
1 学 期	数と式 整式	<ul style="list-style-type: none"> ・計算力の定着と基本的な知識・技能の定着を十分に図るため、反復練習をさせる。 ・いくつかの公式を指導した上で、公式を複合的に利用する問題にも取り組ませる。 ・因数分解は3次式、4次式も含め、様々な解法を紹介するようにする。 	発言(質問) ノート(机間巡視)
	実数	<ul style="list-style-type: none"> ・計算力の定着と基本的な知識・技能の定着を十分に図るとともに、2重根号のはずし方や対称式にも触れる。 	
	1次不等式	<ul style="list-style-type: none"> ・不等式の解の意味や不等式の性質について再度確認する。式変形など計算力の定着にも重点をおく。 ・1次不等式の解法ではグラフを用いて解く方法にも触れる。 ・絶対値を含む不等式もいくつかの解法を紹介する。 	
	2次関数 2次関数とそのグラフ 課題学習	<ul style="list-style-type: none"> ・式変形を行い、グラフがかけるように指導する。 ・2次関数の最大・最小ではパラメータを含んだ問題にも触れる。 ・日常生活において2次関数で表されるような現象を発見し、数式化をする。 	
2 学 期	グラフと方程式・不等式	<ul style="list-style-type: none"> ・2次関数のグラフと2次方程式の解との関係を虚数まで拡張して考える。 ・放物線と直線の共有点の求め方にも触れる。 ・2次不等式の解では、グラフを用いた解法を丁寧に指導する。 	
	図形と計量 三角比	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な定義から派生する公式を自分で導くことができるようになるよう指導する。 ・いくつかの公式を用いて、平面図形や空間図形の辺の長さや角の大きさ、面積を求められるように指導する。その際、図をかいて考える習慣をつけさせる。 	
	三角比と図形の計量	<ul style="list-style-type: none"> ・正弦定理、余弦定理などを使い、三角形の辺や角の大きさを求めさせる。 ・生徒がどのように考えて求めたのかを説明する機会を設け、様々な解き方があることを理解させる。 	
	課題学習	<ul style="list-style-type: none"> ・学校付近に見える丘などの高さや、距離などを測量する。 	
想定 時数 (24)	集合と論証 集合と論証	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的の事柄や用語・記号を再確認する。 ・命題の真偽などを考えることを通して推論の筋道や論理の構造を理解させる 	
3 学 期	データの分析 データの分析	<ul style="list-style-type: none"> ・データの分析で使われる用語とその意味を理解させる。 ・日常生活における様々なデータの処理の仕方の基本を経験させる。 	
	課題学習	生徒の体力測定データのデータなどを用いて、自分たちの体力の現状を分析する。	
想定 時数 (16)			

平成29年度シラバス

学番20 新潟県立村松高等学校

教科(科目)	理科(物理)	単位数	3単位	学年	3学年(選択)
教科書	『総合物理』(数研出版)		副教材等	教科書に沿った内容の自作のプリント	

1 学習目標

「物理基礎」で学習した内容をさらに深く学習する。物理的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。

2 指導の重点

基本から丁寧に指導するよう心がける。自然に対して「なぜ」と常に疑問を持ち、ただ公式を覚えるのではなく、実験や実生活からの経験を生かして、理論的な積み上げができるような態度、思考方法をとることができるように、授業展開を心がける。

3 評価の観点と評価規準及び評価方法

観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③観察・実験の技能	④知識・理解
評価規準	物理的な現象に関心や探究心を持ち、それから法則性を見つけ出そうとしたり、説明をつけようとしているか。 授業や実験などに意欲的に取り組もうとしているか。	物理的な事象・現象の中に問題を見出し、実験や観察事実などに基づいて、順序立てて考え、判断し、的確に表現しているか。	実験や観察の目的を理解し、示された実験方法に従ってそれらを適切に行うことができたか。 実験や観察から得られた事項を自己の思考と関係させながら、レポート等にまとめることができるか。	物理的な事象・現象に関する基本的な概念や法則について理解ができており、その方法や方程式から正しく計算することができるか。
《 評価方法 》 定期考査を基に、提出物、授業への取り組み、出欠席などを総合的にふまえて評価する。				

4 定期考査・課題・提出物

定期考査、実験レポート・学習プリント・ノートなど

5 担当者からの一言

物理基礎で学んだ内容をさらに深く学習します。物理学の公式や、出てくる物理量の意味を理解しながら学んでいけば、理解が深まり、少しずつ興味もわいてくると思います。また、実験については、必ずしも予想と結果が同じになるとは限りません。そこでも『なぜ違ったのか』を考えることで、物理的な思考法や自然の奥深さを知ってもらえると思います。(2年生からの継続履修となります。)

6 年間プログラム

	主 項 目	項 目	学 習 活 動
1 学 期 (36)	第3編 波 第1章 波の性質 第2章 音 第3章 光	①波と媒質の運動 ②波の伝わり方 ①音の性質 ②発音体の振動と共振・共鳴 ③音のドップラー効果 ①光の性質 ②レンズ ③光の干渉と回折	波の伝わり方とその表し方について学習する。 波の基本的な諸現象から、干渉・回折についても学習する。 波の性質を具体的に音について確認しながら、音に関する諸現象を学習する。 ドップラー効果を学習する。 光の諸現象から、回折・干渉について学習し、理解を深める。
2 学 期 (45)	第4編 電気と磁気 第1章 電場 第2章 電流 第3章 電流と磁場 第4章 電磁誘導と電磁波	①静電気力 ②電場 ③電位 ④物質と電場 ⑤コンデンサー ①オームの法則 ②直流回路 ③半導体 ①磁場 ②電流のつくる磁場 ③電流が磁場から受ける力 ④ローレンツ力 ①電磁誘導の法則 ②交流の発生 ③自己誘導と相互誘導 ④交流回路 ⑤電磁波	静電気力に関するクーロンの法則について学習する。 電場と電位の概念について学習する。 電場・電位の概念に基づきながら、コンデンサーのはたらきについて学習する。 オームの法則をもとに、キルヒホッフの法則と直流回路について学習する。 半導体についての基礎を学習する。 磁場の概念について学習する。 モーターの仕組みを学習する。 荷電粒子が磁場から受ける力について学習する。 電磁誘導の法則を学習する。 発電の仕組みを学習する。 交流の電気抵抗の変化を学習する。 電磁波の発生とその性質を学習する。
3 学 期 (24)	第5編 原子 第1章 電子と光 第2章 原子と原子核	①電子 ②光の粒子性 ③X線 ④粒子の波動性 ①原子の構造と エネルギー準位 ②原子核 ③放射線とその性質 ④核反応と核エネルギー ⑤素粒子	量子力学の誕生のきっかけになった現象、及び量子力学の基本的な考え方について学習する。 量子力学とは切っても切り離せない、原子の構造とエネルギー準位の考え方を学習する。 核エネルギーの性質について、及びその利用のしかたを学習する。

教科（科目）	理科（生物）	単位数	3 単位	学 年	3 年
教科書	『生物』（数研出版）		副教材等	『改訂版 リードLightノート生物』（数研出版）	

1 学習目標

1 生物や生物現象について、興味や関心を高める。
2 生物学的に探究する能力と態度を育てる。
3 基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。

2 指導の重点

2年次から引き続き、生命現象と物質について、遺伝情報とその発現過程について学びます。また、生物の集団や生態系について学び、環境問題についても理解を深めます。様々な実験や観察を通して、科学的な思考や判断力の向上を図ります。
--

3 評価の観点と評価規準及び評価材料

観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
評価規準	自分自身を含めた身の回りの生物や、さまざまな生命現象に対する関心が深まったか。 主体的に学んだり参加したりしようとしたか。	基礎的な知識をもとにして科学的に物事を考え、判断していたか。	実験の目的に応じて適切な操作を行い、結果をまとめたり深めたりしたか。	授業を通じて生命現象とそれを支える物質について、また生態系について、理解し知識として身に付けたか。
評価方法	実験プリント ノート 学習状況の観察	実験プリント 各種小テスト 定期考査 ノート 学習状況の観察	実験プリント 学習状況の観察	定期考査 ノート 各種小テスト ワーク

4 定期考査・課題・提出物

1、2学期は中間及び期末考査、3学期は学年末考査を行い、年間で5回考査を実施します。授業で扱った内容を中心に、用語・法則について、生物の仕組みや働きについて、考査問題を出題します。随時実験や観察を行います。ノートの定期提出もあります。

5 担当者からの一言

普段、私たちは“生きている”という事を意識したり、他の生物や環境との関わりを深く考えたりすることなく、何気なく生活しています。実は、生命は色々な物質に支えられ、多くの化学反応が組み合わさり、精巧な仕組みで成り立っているのです。その仕組みを知り、生命の不思議さを感じて下さい。また、生態系のなりたちや仕組みを知り、人間の生活と環境との関わりについてよく考えていって下さい。

6 年間プログラム

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動【評価方法】
	ガイダンス (1)	概略 シラバス配布等	
(36) 時間 想定	第7章 生物群集と生態系 1. 個体群 2. 個体群内の個体間の関係 3. 異種個体群間の関係 4. 生物群集 5. 生態系における物質生産 6. 生態系と生物多様性	個体群, 個体群の成長と密度効果, 個体群の年齢構成と生存曲線, 動物の群れ, 縄張り, 動物の社会生物の異種個体群間における競争, 被食者-捕食者相互関係, 共生と寄生, 生物群集, 生態的地位と共存, 生態系の成り立ち・物質生産・エネルギーの利用, 生物多様性・影響を与える要因-かく乱, 個体群の絶滅を加速する要因	【学習状況、実験プリント、ノート、各種小テスト、提出物、定期考査】
1 学 期	中間考査		
	テスト返却		
	第8章 生命の起源と進化 1. 生命の起源 2. 生物の変遷 3. 進化のしくみ	有機物の生成と蓄積, 有機物から生物へ, 生物の出現とその発展, 細胞の発達-真核生物の出現地質時代 (先カンブリア時代, 古生代, 中生代, 新生代, 人類の出現と進化)	
	期末考査		
(45) 時間 想定	テスト返却 第9章 生物の系統 1. 生物の分類と系統 2. 原核生物 3. 原生生物 4. 植物 5. 動物 6. 菌類	生物の分類, 系統と分類, 系統分類の方法, 生物の分類体系 原核生物, 原生生物, 植物の分類の考え方, コケ植物, シダ植物, 種子植物, 動物の分類の考え方, 無脊椎動物, 脊椎動物菌類	【学習状況、実験プリント、ノート、各種小テスト、提出物、定期考査】
2 学 期	中間考査		
	テスト返却 第1章 細胞と分子 2. タンパク質の構造と性質 3. 酵素のはたらき 5. 細胞の活動とタンパク質	タンパク質の立体構造と機能 酵素の基本的なはたらき, 酵素の性質・ともにはたらく分子・反応の調節 生体膜, 生体膜と物質の出入り, 細胞間結合, 細胞骨格とそのはたらき, 免疫とタンパク質	
	第2章 代謝 1. 代謝とエネルギー 2. 呼吸と発酵 3. 光合成 4. 窒素同化	代謝とATP, 生物とエネルギー 呼吸, 呼吸のしくみ, 発酵, 脂肪とタンパク質の分解, 光合成, 光合成と葉緑体, 光合成のしくみ, 細菌の炭酸同化, 植物の窒素同化, 動物の窒素同化	
	期末考査		
(24) 時間 想定	テスト返却 第3章 遺伝情報の発現 1. DNAの構造と複製 2. 遺伝情報の発現 3. 遺伝子の発現調節 4. バイオテクノロジー	DNAの構造, DNAの複製, 遺伝情報とその発現, 転写とスプライシング, 翻訳, 原核細胞のタンパク質合成, 遺伝情報の変化と形質への影響, 遺伝子の発現と調節, 原核生物の転写調節, 真核生物の転写調節, 遺伝子組換え技術, 生物への遺伝子導入, DNAの増幅と塩基配列の決定, 遺伝子発現の解析, バイオテクノロジーと人間生活	【学習状況、実験プリント、ノート、各種小テスト、提出物、定期考査】
3 学 期	学年末考査		
	テスト返却		

教科（科目）	芸術（音楽Ⅰ）	単位数	2単位	学年	3年
教科書	『Tutti 音楽Ⅰ改訂版』（教育出版）	副教材等	なし		

1 学習目標

- ①音楽活動を通じて、音楽の持つ多彩な生命力に触れ、音楽文化への理解と愛好心を育てる。
- ②音楽の幅広い活動を通して、生涯に渡って音楽を愛好する心情を育てるとともに、感情を高め、創造的な表現の能力を伸ばし、自己のみならず他者の即ち世界文化を理解・共有できる人間の育成を目指したい。

2 指導の重点

- ・音楽についての総合的な理解を深めるため、歌唱、器楽、鑑賞、創作の各領域を一体化した内容を授業に盛り込む。また、主体的な学習態度を育てるため、適切な課題を設定して学習を進める。
- ・計画的な共同作業を設定して、仲間と協力して努力し、達成感と演奏する喜びを体験させる。

3 評価の観点と評価規準及び評価方法

観点	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
評価規準	音楽活動の喜びを味わい、音楽や、音楽文化に関心をもち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとしている。	音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、音楽表現を工夫し、表現意図を持っている。	創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身につけ、創造的に表している。	音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、解釈し価値を考えて、音楽に対する理解を深め、良さや美しさを創造的に味わっている。
評価方法	遅刻・忘れ物がないか 指導や指示への反応 努力する姿勢 提出物 実技テスト	発声での反応、表現力 器楽奏法、表現の工夫 実技テスト	取り組み姿勢 実技テスト	感想文

4 定期考査・課題・提出物

- ・定期考査は各学期中に行う。
 - ① 実技：歌唱、器楽合奏を課題解決への自主計画の内容とともに五段階の基準を設けて評価する。
 - ② 楽典：学習範囲の理解度を確認する。
- また、これらに普段の授業態度やプリント内容を加味して成績とする。授業態度は努力度として重視する。

5 担当者から一言

・音楽とは本来、自発的な行為であり、自ら奏でることによって音楽の楽しさ、喜びが味わえると感じています。さまざまな音楽を学び、自ら体験することによって、多文化への理解や音楽文化の価値を見出せるようになってほしいと望んでいます。

6 年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動【評価方法】
23 時間 想定 1 学 期	音楽と生活	自分の音楽経験を振り返る。 本校校歌の学習。歴史や歌詞の意味の理解。発声のための姿勢、呼吸法。	・音楽アンケート。 ・発声のための準備運動。 ・校歌の歌詞、歌唱練習。
	日本の歌と音楽：歌唱、鑑賞	日本の歌を通し、日本の音楽の特徴を考え、理解する。	・「少年時代」「上を向いて歩こう」、「この道」等の鑑賞、歌唱。
	ピアノ演奏	鍵盤楽器の奏法、楽譜の読み方を理解する。	・基本奏法を基に、平易な楽曲の独奏を目指し練習に取り組む。
	鑑賞	映像と音楽の関係に意識を向けて、音楽関係の映画を鑑賞する。	・音楽映画を鑑賞する（未定） ・課題プリント
	楽典	演奏曲の楽譜の記述について学習し、楽譜の成り立ちを理解させる。	・五線の理解。音符の長さ、休符の長さ、音名の区別、拍子、楽語の理解。
	学習内容の確認	歌と楽器の実技テスト	・単元の総仕上げとして、その都度確認試験を行う。
29 時間 想定 2 学 期	西洋の歌と音楽：歌唱、鑑賞	西洋の歌を通し、西洋の音楽の特徴を考え理解するとともに、日本の音楽について考え直す。	・「Caro mio ben」の鑑賞、歌唱。 ・イタリア語の発音、語感から、曲の感じをつかみ、表現する。
	楽典	演奏曲の楽譜の記述について学習し、楽譜の成り立ちを理解させる。	・リズム、音階、楽語の理解。各種記号。
	和楽器の演奏、鑑賞	基礎的な奏法を学ぶ。 和楽器を通し、日本の伝統音楽に触れる。	・和楽器を演奏、鑑賞することで、日本音楽の特徴を学び、自国の文化財産に興味関心を持つ。
	演奏発表会に向けてⅠ	学年末の演奏発表会開催に向けて準備に入る。 到達目標、練習計画を立てて実行する。	・1年間のまとめとして、選曲から練習計画まですべて自分たちで考えて進める。
	学習内容の確認	歌と楽器の実技テスト	・単元の総仕上げとして、その都度確認試験を行う。
16 時間 想定 3 学 期	演奏発表会に向けⅡ	2学期に引き続き、演奏発表会に向けた活動を進める。	・2学期に進めてきた内容を、さらに掘り下げ、人前で演奏するにふさわしい状態になるよう取り組んでいるか。
	演奏発表会リハーサル	本番に向け、リハーサルを行う。	・人前で演奏する心構えの重要性を実感できているか。
	演奏発表会の開催	演奏発表会の形による実技テスト	・取り組みに最善を尽くすことができたか。

計 68 時間 (52 分授業)

平成29年度シラバス（芸術 — 美術）

学番20 新潟県立村松高等学校

教科（科目）	芸術（美術Ⅰ）	単位数	2単位	学年	3年
教科書	高校生の美術1（日本文教出版）	副教材	課題制作のための説明プリント他		

1. 学習目標

美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

2. 指導の重点

- 楽しく美術の活動に取り組み、創造活動の喜びや、美術を愛好する心情を育てる。
- 美術や美術文化を広く理解させ、その良さや、美しさを創造的に理解させる。
- 創造的な美術の表現をするための技能を身につけさせる。

3. 評価の観点と評価規準及び評価方法

観点	美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
評価規準	美術の創造活動の喜びを味わい、美術や美術文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて、主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。	創造的な美術の表現をするために、必要な技能を身につけ、表現方法を工夫して表している。	美術や美術文化を幅広く理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作品 ・ 課題プリント ・ 取り組み姿勢 ・ 持続力 ・ 意欲 ・ 発言 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作品 ・ 発想力 ・ 構想力 ・ 発言 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作品 ・ 集中力 ・ 向上心 ・ 適切な用具の使用や後片付け 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題プリント ・ 発言

4. 定期考査・課題・提出物

- ・ 定期考査は行わない。作品制作や鑑賞を通じて、完成作品だけでなく草案やレポート、取り組み姿勢などを総合して評価する。
- ・ 課題や作品には、必ず記名し、提出日は、厳守すること。

5. 担当者からの一言

・ 他の人とは違う自分の良さを発見し、個性ある作品になるよう向上心をもって取り組むことを期待します。最後まであきらめず、丁寧な作品制作を心がけて下さい。

6. 年間学習計画

学期	学習内容／題材		学習のねらい	学習活動・【評価方法】
(23) 1 学 期	4月	オリエンテーション／ 「美術1」とは	「美術1」の学習の意義を知り、年間 の予定や評価について理解する。	シラバス等配付。 今年目標
		デザイン／ レタリング	読みやすく、美しく統一感のある文 字を描く力をつける。 アクリル絵の具の特性を知り、扱い 方を身につける。	ポートフォリオにアルファベットで 氏名をレタリング、アクリル絵の具 で着色。 【作品】
	5月	デザイン／ 基礎デザイン	直線や円弧を使い、幾何学模様をデザ インをする	①三角定規やコンパスを使用し、幾 何学模様をデザインする。作成 【作品】
	6月	デザイン／ ペーパークラフト	透かし彫り・切り絵の技法を理解す る。 カッターナイフの正しい使用法を理 解する。	②デザインされた幾何学模様を透か し彫り、正多面体を作る。 【作品】
(29) 2 学 期	7月			
	8月	鑑賞／	美術と人間、作品についての理解を 深める。	VTR等の鑑賞。 感想カードへの記入。 【感想カード】
	9月	美術史、美術の流れ		
	10月	色彩／ カラーワーク ①	①色の要素や12色相環、配色につい て理解する。	①12色相環をもとに配色表を作成。 【作品】
	11月	カラーワーク ②	②絵の具の混色により、多様な表現 ができることを学ぶ。	②自分だけの100色制作 【作品】
12月	カラーワーク ③	③色彩構成の制作を通して、多様な 表現ができることを学ぶ。また、友人 の作品を鑑賞し、相互理解をする。	③パネルの水張り 色彩による感情の表現 【作品】【感想カード】	
(16) 3 学 期	12月	鑑賞／ 作家の生き方と作品	作者の心情や意図、表現の工夫など について理解を深める。	VTR等の鑑賞。 【感想カード】
	1月	絵画／	観察力を養いデッサンの基礎を学 び、描写の技能を高める。	石膏像などの鉛筆デッサン。 【作品】
	2月	デッサン		
3月	絵画／ ドローイング	大胆な色彩や筆遣いで描く喜びを体 験する。また、偶然こぼれあがる美を 発見し、抽象絵画の面白さを知る。	アクリル絵の具使用、刷毛、ローラー 等によるドローイング。 【作品】	

計 68 時間 (52 分授業)

教科（科目）	芸術（書道Ⅰ）	単位数	2単位	学年	3年（1クラス）
教科書	『書Ⅰ』（教育図書）	副教材等	なし		

1 学習目標

書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。

2 指導の重点

- 1 用具、道具の適切な扱い方を学ぶ。
- 2 文字を素材とした表現活動を中心とし、さまざまな題材のねらいをもちながら自己表現を展開していく。
- 3 文字の成立について学ぶ。

3 評価の観点と評価規準及び評価方法

観点	書への関心・意欲・態度	書表現の構想と工夫	創造的な書表現の技能	鑑賞の能力
評価規準	<p>さまざまな書の美に関心をもっている。</p> <p>意欲的、主体的に表現し、その喜びを味わおうとしている。</p> <p>学習にのぞむ態勢は整っている。</p>	<p>表現効果を高めるための工夫をしている。</p> <p>習得した技法を、表現活動に生かしている。</p>	<p>基本的な用筆法を習得し、用具・用材の特性を生かした表現の技法を身につけている。</p> <p>創意工夫のある表現ができる。</p>	<p>書の良さや美しさを深く味わっている。</p> <p>古典作品の時代的、書道史的価値を理解し文章に出来る。</p>
評価方法	<p>作品制作に取り組む姿勢。</p> <p>課題作品の提出。</p> <p>毎時の出席状況、用具の準備状況（忘れ物、遅刻は減点、皆勤、忘れ物なしは増点）</p>	<p>課題作品の提出</p> <p>作品製作過程における補助プリントの内容。</p>	<p>基本的な用筆法を習得し、用具・用材の特性を生かした表現の技法を身につけているか。</p> <p>創意工夫のある表現ができたか。</p>	<p>作品鑑賞に取り組む姿勢。</p> <p>鑑賞カードの記入状況</p>

4 定期考査・課題・提出物

- ・ 定期考査はなし。各单元ごとの作品提出(各学期 5点程度)

5 担当者からの一言

多くの個性豊かな古典に触れながら、少しでも多くの技法を習得し、自分らしく伸びやかな書を書こう。書の学習を通して、他の芸術にも触れ、自己の感受性を高めよう。

6 年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい（何を学ぶか）	学習活動【評価方法】
(23) 時間 想定 1 学 期	授業の進め方と書写	授業の進め方、評価の仕方などを理解する。 書写の復習をしながら、筆使いを学ぶ。	学習活動への参加状況や態度 「永」字の提出。
	硬筆の学習	硬筆書写検定3級問題をもとに行書やはがきの宛名書き、速書きなどの実用的な硬筆を学ぶ。	学習活動への参加状況や態度 プリント提出 理論問題の確認テスト理解状況
	漢字の書の学習	漢字の書の変遷について学ぶ。 北魏時代の楷書成立の背景を知り、造像記の臨書を通して多様な表現法を学ぶ。	学習活動への参加状況や態度 提出作品
	競書大会作品制作	新潟県の競書大会課題を練習、出品。 課題語句を古典をもとに創作し、半紙作品を仕上げる。 新潟県書道教育研究会 新潟大学競書大会 (二つの内一つを選択)	学習活動への参加状況や態度 提出作品
(29) 時間 想定 2 学 期	行書の学習	行書の基本を学び、流動的な運筆になれ、表現の幅を広げるとともに日常で使えるようになる。 王羲之「蘭亭叙」についての理解を深め、全臨(全文を書き写すこと)に挑戦する。	学習活動への参加状況や態度 提出作品 プリント記入状況
	隸書	古典の臨書を通して隸書の特徴を理解し、普段使用する漢字を隸書体で書き表す。	学習活動への参加状況や態度 提出作品
	漢字仮名交じり書の学習	漢字と仮名の調和をはかりながら、日本語の字句を書き作品として仕上げる。	学習活動への参加状況や態度 提出作品
(16) 時間 想定 3 学 期	書きそめ	新年にあたり、今年目標を半紙に書く。	学習活動への参加状況や態度 作品提出 練習枚数
	共同作品	数人のグループで、作品のテーマを決め、図書館等で題材、言葉をしぼり、構成や表現効果を話し合いながら大作を仕上げる。	学習活動への参加状況や態度 提出作品

計 68 時間 (52 分授業)

教科（科目）	家庭（フードデザイン）	単位数	3単位	学 年	3年（選択）
教科書	『新版フードデザインCOOKING & ARRANGEMENT』（教育図書）	副教材等	『フードデザインワークノート』（教育図書）		

1 学習目標

<p>栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を習得し、食事を総合的にデザインする能力と態度を育てる。</p>

2 指導の重点

<p>①栄養と食品の知識を調理に関連させ、調理をする上で役立てるようにする。 ②テーブルコーディネートやサービスの仕方を習得し、栄養を満たすとともに、食の文化的な意味もふまえて、心も満たせるような食事作りができることを目指す。 ③家庭科技術検定4級の合格を目指す。</p>
--

3 評価の観点と評価規準及び評価方法

観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価規準	自分の食生活や我が国が抱える食生活の問題点などについて、関心を深めている。	健康な生活を送るために、どのような食事をとるべきかを考え、実生活にいかそうとしている。	調理実習や実験と結びつけて知識を生かそうとしている。 身支度、手洗いを励行し、衛生面に注意して調理ができる。	栄養と食品に関する知識が身に付いている。 季節感を出す食卓のコーディネートがあることを理解できる。
評価方法	ノート 提出物 取り組み姿勢	提出物 取り組み姿勢 発言	調理器具の扱い方、片付け方 身支度、実習態度 取り組み姿勢	定期考査 ノート 提出物 取り組み姿勢

4 定期考査・課題・提出物

<p>定期考査は、中間、期末とも100点満点とし、授業内容の理解度を確認します。年間5回実施します。また、提出物は、授業中に取り組むプリント、ワークノートです。</p>
--

5 担当者からの一言

<p>フードデザインでは、2年次の家庭総合で学習した食生活に関する知識を土台とし、より専門的な内容を学習します。食に関する様々な知識を学び、栄養も心も満たせる食事とはどのような食事なのか考えてみましょう。 家庭科技術検定（食物調理4級）を実施します。全員で合格を目指しましょう。</p>
--

6 年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動【評価方法】
(34) 時間 想定 1 学 期	「フードデザイン」とは	「フードデザイン」で学ぶ内容、評価について理解する。	実習計画表の配布、アンケート
	食生活の充実・向上	食生活の変化と現状、これからの食生活、食べることの意義と役割など調理実習	我が国の食生活の現状を理解する。 【ワークノート】【プリント】【発言】
	調理の基本	調理の目的、食べ物のおいしさなど調理実習	調理の目的を理解する。 食べ物の味は様々な要因に影響されることを知る。 【ワークノート】【プリント】【発言】
	中間考査		
	調理の基本	調理操作について調理実習	目的に応じた調理操作を理解する。 【プリント】【調理実習】
	期末考査		
	家庭科技術検定 食物調理4級実施	調理の基礎である切り方・計量ができる。基本的な調理法の要点がわかる。	切り方・計量・基礎知識
(43) 時間 想定 2 学 期	様式別献立と調理・食卓作法	日本料理、西洋料理、中国料理の特徴と献立・食卓作法 調理実習	各様式の特徴を理解する。 【ワークノート】【プリント】【発言】
	中間考査		
	テーブルコーディネート	日本料理、西洋料理のテーブルコーディネートについて 臥龍祭で作品展示 調理実習	テーブルコーディネートの基本をふまえ、食卓の整え方や周囲の環境づくりができる技術を身につける。 【ワークノート】【プリント】【実習】
	期末考査		
(23) 時間 想定 3 学 期	食品の調理性	食品各々が持つ性質と調理の関係 調理実習	食品の成分と構造、食品の性質と調理の関係について理解する。 【ワークノート】【プリント】【発言】
	献立作成	献立作成の留意点、バランスのとれた献立の作成（自由献立） 調理実習	献立作成の留意点を理解し、望ましい献立作成ができる能力を身につける。 【ワークノート】【プリント】【発言】
	学年末考査		

計 101時間 (52分授業)